

インナー大会 プレゼン部門 2019 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) カナガワダイガク	フリガナ) ケイエイガクブ	フリガナ) ユキモトゼミナール
神奈川大学	経営学部	行本ゼミナール

※大会申込書に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) チーム シンク	フリガナ) キムラ ナオヤ	4	有	4 9
Team THINK	木村 直哉			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。

研究テーマ (発表タイトル)

スマホ 1 台で事故ゼロへ

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

我々の研究目的は、交通事故を減らすことです。現在、日本では 1 年間に約 4 万 5 千件以上の交通事故が発生しています。この数字は 1 分で約 2 件、事故が発生していることになっています。そこで我々は事故が起こりやすいエリアの一つである観光地に特化した総合観光情報アプリを開発し、アプリの中に交通情報を盛り込むことで交通事故に関する注意喚起を間接的に行い、交通情報を幅広く周知していくことを目的としています。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

我々は交通事故が発生しやすい状況の一つは、渋滞時であると仮説を立てました。渋滞時の事故発生率は、通常時に比べて 30 倍以上になっています。そこで私たちは渋滞が起こりやすい環境として観光地に着目しました。なぜなら観光地は渋滞による

事故に無意識下で巻き込まれる可能性が高いと考えたからです。そこで観光地の渋滞に焦点を当て、中でも渋滞が多く発生している神奈川県鎌倉市をサンプルに研究を開始しました。鎌倉市は、観光交通イノベーション地域に選定されており、渋滞の発生率が県平均に比べて 3.5 倍程高く、事故発生率も県平均に比べて 2.1 倍になっているという問題を抱えています。

3. 研究テーマの課題

上記したように、鎌倉市は「観光交通イノベーション地域」に指定されており、国内の観光地の中でも交通集中の面で問題視されています。鎌倉市も現状としてパークアンドライドなどの対策のほかに、ロードプライシングを来年から開始するなど乗用車に向けた対策を行っていますが、効果が薄いということが我々の調査でわかりました。さらに渋滞や事故の発生率が県の平均より高く、来訪者による事故の割合も市民より多い一方で、鎌倉市で実施されている対策は市民向けのものばかりであり、観光客向けの対策は少ないということがわかりました。また鎌倉市のメインストリートである鎌倉駅周辺や小町通りにも自動車向けに注意を喚起する標識はありますが、小さく目立たない状況です。我々が観光客に対しておこなった意識調査から、鎌倉での観光にあたり観光情報は事前に調べていましたが、交通情報は調べていないことがわかりました。そこで観光客に向けて対策を立てる必要があると考えました。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

図 1



図 2

ビジネスモデルキャンバス

KP (キーパートナー) アプリ会社 株式会社 アドネット様 鎌倉市役所 鎌倉市商店街	KA (キーアクティビティ) お店とアプリを繋ぐ 危険情報を知らせる 観光スポットの調査 専門家に話を聞く KR (キーリソース) 観光地の情報 (お店、現地の 細かい情報等)	VP (提供価値) 安全にお客様 に来てもらう 1人でも多くのお客 様が商店街に訪れ て欲しい	CR (顧客との関係) セルフかつ 継続的な関係 CH (チャネル) 商店街・観光協会、 まっふるにQRコード を置く	CS (顧客セグメント) ・観光客と 神奈川に 在住している 人 ・スマホ利用者
CS(コスト構造) パートナー契約 開発費はなく、利益の一部をアプリ 会社の分配		RS(収益の流れ) HP制作費 広告収入費		

我々が考えた課題解決策は、観光地に特化した観光情報アプリ「Tours pool」の開発です。このアプリ（図 1）は、観光情報を調べつつ、その観光地の交通情報を知ってもらい事故に対する意識を定着させることが狙いです。ここで大切なことは、あくまで観光アプリとしての機能を前面に押し出す事です。そのため搭載する機能は 1.観光マップや店舗情報の表示 2.クイズに答えてクーポンゲット 3.時期によってのおすすめスポット 4.インスタ映える場所の紹介といったその地域に特化した観光情報を軸としています。これだけの要素ではただの観光アプリになってしまいますが、そこに交通情報を織り込もうと考えています。例えば、観光マップ上の事故が起きやすい場所を赤く表示する点や、クイズの内容を交通情報に関するものにする、渋滞を回避する観光ルートの表示といった点です。これにより、普段あまり調べない事故の情報をアプリ利用者は調べる必要もなく認知することができます。また、このアプリを交通情報アプリではなく観光情報アプリとして開発した理由は、交通情報を前面に押し出した場合には利用者がインストールしないのではないかと推測から、表向きは観光情報アプリとした方が人々の目に入る機会が増えると考えたからです。また、このアプリを使うことにより歩きスマホによる事故が起りやすくなるのではないかと懸念されますが、事故多発エリアに近づくとバナーが表示されると共にバイブレーション機能を作動させ、危険を喚起することにより問題に対処する予定です。それに

加え自動車運転者が使用した場合、ナビ機能のみを使用可として音声で案内することにより事故を未然に防ぎます。

そして、これらの方法で実際にビジネスとして成立するのか（図 2）、株式会社 PITTO 代表取締役 福井啓介様に直接お話をさせていただいた際に「十分ビジネスとして通用する」といったコメントをいただきました。

また実現可能性という観点から研究し、図 3.4 のようなグラフで収支目標を考えており、この面からも実現可能性は高いと考えられます。

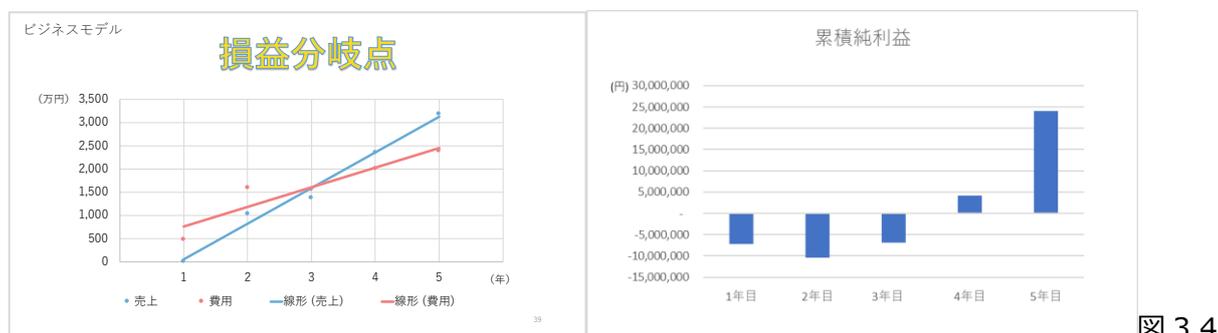


図 3.4

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

観光情報アプリ「Tours pool」の開発のため、このアプリの実現可能性及び需要について調査をしました。

その中でも、このアプリがそもそも作成可能なものであるのか、鎌倉市役所や観光協会などの公的団体が類似のアプリを開発していないか、このアプリを使いたいと思っただけの観光客がいるのか、そしてこのアプリに広告を出していただける店舗があるのかという4つの点から専門家やアンケート調査で検証作業を開始しました。

まず鎌倉を訪れた観光客男女 100 人に対し街頭アンケート(図 5)を行い、観光客の事故に対する意識調査及び、開発するアプリの需要やアプリに対する要望を調査しました。その結果、「このアプリを使いたいか」という質問に対して実に 80 人の方から利用したいという声をいただきました。また、他アプリとの差別化という観点から、観光地のより詳しいおすすめスポットなどを盛り込むため、現地でのアンケートを参考に実際に鎌倉を訪れての不満や要望の調査を並行して行いました。調査でいただいた意見や要望を独自の情報として盛り込むことで Tours Pool 独自の観光情報を提供します。鎌倉市役所観光課の片桐様にお話をさせていただいた際に「非常に面白く、ぜひ協力してみたい」とのお言葉をいただきました。また、アプリについては「ランニングを行うことが難しく、行政で実施することは困難」とのコメントもいただき、現状、行政ではこういったアプリを作成していないとのことでした。そのほかにも、鎌倉市観光協会の大川様にもお話をさせていただき「着眼点がとてもよく、おもしろい」とお言葉をいただきました。また開発するにあたり、株式会社アドネット様にアプリ開発の見積もりをお願いし、同時に同社の浜田様にお話をさせていただいたところ、「アプリの機能は実現可能で、作成費についてもレヴェニューシェアで十分に検討できます」とのお言葉をいただきました。

そして、広告主になっていただく予定の鎌倉にある店舗様にアンケートを取らせていただいたところ、前向きかつ協力的なお言葉を数多くいただくことができました。また店舗側から見た私たちのアプリに対するご意見によって鎌倉の新たな情報を手にすることができました。

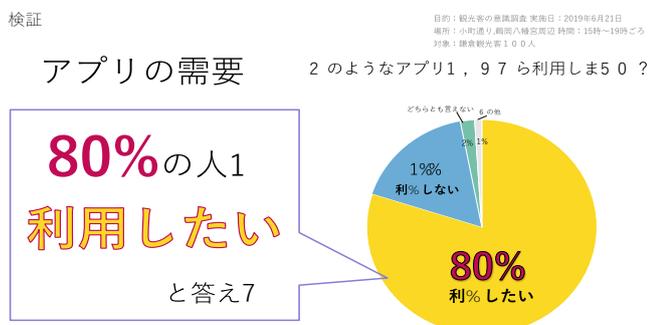


図 5

6. 結果や今後の取り組み

私たちのアプリの運用に対して様々な方々からご意見をいただき、実現可能性は高いと考えられます。現在のビジネスモデルを基盤とし、アプリ開発を進めていく予定です。そしてアプリのリリースにより事故対策としての効果が測れるかどうかを、アクションリサーチにより検証していきます。アクションリサーチの実施後、鎌倉と同じ観光交通イノベーション地域でもある京都においてアクションリサーチを行い、全国の観光地に向けてこのアプリをカスタマイズしていく予定です。

7. 参考文献

神奈川県警 交通部 交通総務課

NEXCO 西日本 (2019)「NEXCO 西日本管内のゴールデンウィーク期間における高速道路の渋滞予測」

<https://search.w-nexco.co.jp/forecast/>

交通事故総合分析センター (2019)「2018 年 交通事故件数」

https://www.itarda.or.jp/materials/traffic_accident/free

鎌倉警察署 (2019)「鎌倉市内事故件数」

<https://www.police.pref.kanagawa.jp/ps/64ps/64mes/64mes601.htm>

国土交通省 (2019)「鎌倉地域の交通状況について」

http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000729273.pdf

鎌倉市交通課提案内容(2018)

<http://www.ktr.mlit.go.jp>

鎌倉市交通安全対策(2018)

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kurashi/koutsuu/anzen/index.html>

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様(株式会社日経 BP マーケティング)に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合は、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ **ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください**